

ここが札幌のへそ

札幌建設の地

札幌の街づくりの基点をしるした「札幌建設の地」碑をご紹介します。

札幌の街づくりは、明治二年（一八六九年）十一月に島判官が札幌へ着任したときから始まります。今から百三十五年前のことです。

このころ札幌はどんな様子だったか、皆さんは想像できますか。今ではたくさんビルの建ち並ぶ街に発展しましたが、当時は広々とした密林や湿地でおおわれていました。

島判官の仕事は、この原生林の中に北の都をつくることでした。それは、京都のような碁盤の目のような街並みをもつ都です。そこで、当時すでにできていた大友堀（今の創成川）のふちを中心として、札幌の都の設計図を描きました。火事が起きても燃え広がらない大きな通り（今の大通公園）を挟んで、北側を開拓使本庁舎などの官庁街、南側は一般の人が家や商店を建てられる土地とするなどの計画を立て

て、札幌を離れました。

四年（一八七一年）に札幌に来た岩村判官は、この島判官の計画を実行し、今の創成橋のたもとを基点に街づくりを始めました。こうして、札幌「本府」建設のころから、碁盤目状の街並みがつくられ、それが受け継がれて、美しい街—札幌へ発展してきました。

今ではこの計画通り、大通公園の北は裁判所・道庁・市役所などが建ち並ぶ官庁街、南は商店街として発展しています。

札幌「本府」として最初に街づくりの手が加えら



「札幌建設の地」碑

れ、土地区割りの中心となった地区は、今でも「本府地区」と呼ばれ町内会名になり、ここに住む人の誇りとなつていきます。

昭和四十二年、この本府地区の人たちが、札幌建設の基点となった石と、札幌建設が始まった由緒ある土地であることを永久に残そうと建てたのが「札幌建設の地」の記念碑（南一西一）です。札幌を意味する球状の上に東西南北の基点を表す朝顔型、さらに将来の発展を祈るわらび型を積み重ねた形をしています。また、碑を挟んで右側に創成橋の親柱石と、左側に札幌軟石で作られた石橋の一部が残っています。

札幌の街づくりの基点の証しとして、住民の手で守られ、これからも街の発展を見守り続けていくことでしよう。

（平成十七年二月号・第百回）